

新宮山彦ぐるーぷ第1925回

行仙宿への荷上げ寄贈品拝受及び行仙岳北面段差の現状把握

- ◇実施日；2017年04月21日(金) 曇り一時霧雨
- ◇参加者；電源開発(株)橋本流通事業所 高橋英治課長、手塚健一課長、松井祐也課長代理、神原龍太郎、藤田祥太郎。
- 川島 功、沖崎吉信、濱野兼吉。 計8名。

電源開発(株)中地流通システムセンター橋本流通事業所より、「大峯南奥駈道の整備に関する定期寄贈品」(飲料水(2L×5本)2箱+缶パン(24缶)2箱+ガスカートリッジ(3本)8セット)と「くい丸(L1E×40本+L1.5E×20本)」の行仙宿への荷上げ実施にあたり、モノレール借用打診の連絡があり、モノレール運転と荷上げの手助けをして、寄贈品拝受のために同行することにした。小雨を予想していたが曇り空である。

下北山村へと入ると時間制限通行止め標識が在り、停車して確認すると浦向から5km・距離標No364付近(ヘアピンカーブ地点)の標識であるが、昨日川島が吉野土木事務所で電話確認した時間制限通行止めと異なっていて、白谷トンネル時間制限通行止めになっている、このままでは11時40分迄待機する事になる。

浦向から国道55号線へ入ると「本日通行可」の標識になっていて安堵する。白谷トンネル口に行き確認するが、全面通行止めなのか時間制限通行止めなのか判断しうる標識がなかった。

少し戻って行仙宿登山口に着くと、電源開発(株)さんの車が2台到着し、荷上げ品をモノレールの傍に降ろされていた。

川島がM機駐機場より下ろして来て、荷を積み込んだ後、自己紹介と寄贈の御礼を述べる。

モノレールは満杯で、運転の川島以外の方は、モノレール終点まで歩いて登る。今回初参加の方は1名であった。



白谷トンネルの工事標識



登山口から空身で登る



M機終点で荷作り



M機終点で各自「くい丸」を担ぐ荷作り



佐田の辻に到着

くい丸(L1E×5本は、モノレール終点下の補給路の栈木補修に使用のため終点横に仮置いた。

モノレール終点で定期寄贈品及びくい丸は、各自が荷作りするが、L1.5Eの「くい丸」を背負い子への荷作りに一苦労される。

くい丸は、背負い子以外に肩で担いだり、手に持ったりして荷上げする。全員が行仙宿に11時半前に到着し、くい丸は行仙宿東側軒下に仮置きする。

修復した役行者尊像を拝顔して頂き、宿内で昼食にするが、電

源開発株さんは、雨と昼の規制解除中に通過を想定して、昼食は登山口の車に置いてきたとの事。

コーヒーと浅村仏師から頂戴したクッキー菓子で休憩し、水場の水涸れ時は命の飲料水になり、悪天候で停滞時等はガスコンロが使用出来、寄贈品は登山者や行者さんにとって本当に有難く使われている事と旧通信道(電源鉄塔巡視路)は改修後約8年が経過し「くい丸」はトラバース道の栈木補修に本当に役立つ話と談笑をする。程なく全員で記念撮影後、12時20分に電源開発株の5名が下山された。



定期寄贈品



寄贈「くい丸」



全員で記念撮影

昼食後に行仙岳北面の奥駈道の木製段差の現状把握をして、連休中に改修するための栈木・木杭等の凡その必要数量算定に、栈木約10本を担いで点検に行く。

曇り空から霧雨の状態になり見通しは悪い。

行仙岳北面の捲き道分岐の石柱道標は、大きく傾くことなく立っていた。分岐下の急斜面の木製段差は、雨・雪・霜柱で土が流れ、木杭が例年のごとく浮き上がって歩きづらい状態である。

大ハンマーで杭を打ち直せば補修可能と判断し、栈木と木杭は約20本用意する必要がある。行仙宿に戻り小休止後に下山。



行仙岳北面分岐の石柱道標 霧雨の行仙岳 あざやかなミツバツツジ 白谷トンネル補修工事に伴う通行制限標識の設置確認のため、21世紀の森方面へ。石楠花祭りの幟が道路沿いにあり、石楠花が一部咲いていた。葛川トンネルを抜けて帰新する際に、国道425号線・小川地区の落石対策工事が及び葛川トンネル工事に伴う時間制限通行止め標識を確認して帰新した



十津川側の2箇所通行規制標識

葛川トンネル通行規制

行動タイム

新宮8:50→10:25行仙宿登山10:40→10:55モノレール終点11:05
 ↓11:30行仙宿(電源開発株休憩後)12:20(下山)12:50→13:20行仙
 岳北面捲き道分岐→13:40行仙岳→14:05行仙宿14:10→14:40登
 口14:45→15:25葛川トンネル→16:20新宮。(記:川島)